せつこっこクラブ6月

「パパのかお レリーフをつくろう!」を開催しました

日 時:令和元年6月15日(土)午後2時~4時

参加人数:子ども19名(年少7名、年中5名、年長2名、1年生4名、4年生1名)

保護者16名

参 加 費:300円(材料費)

職 員:野田、大村

「せつこっこクラブ」は、子どもたちに三岸節子作品や芸術に親しんでもらうため、 毎月1回を目安に開催しているワークショップです。

6月15日(土)の「せつこっこクラブ」では、翌日の父の日にちなんで、お父さんの顔を紙粘土のレリーフ(浮き彫り)で表現するワークショップを企画しました。以前から、未就学児も参加できるワークショップを望む声が多かったのですが、定員を超えるご応募をいただき、事前に抽選を行いました。

はじめに、職員から「明日、何の日か知ってるー?」と質問を投げかけると、「父の日一!」という元気なお返事がいくつも返ってきました。





まずは、レリーフの土台となる段ボールのパーツを選んでいきます。顔の形も丸や

四角、楕円などの中から、お父さんにぴったりのものを探します。続いて目、鼻、口…。「メガネはどうしよう?」「丸をくり貫いた残りのパーツが、いいんじゃない?」「ほくろも作りたい!」子どもたちは、職員や保護者の方とそんな会話をしながら、選んでいきました。





顔のパーツをボンドで留めたら、乾燥するまでの時間を利用して、皆で常設展示室へ移動し、三岸節子さんの絵を鑑賞します。常設展示室では、コレクション展(常設展)「節子とエッセイに記された芸術家たち」を開催中でした。「色彩の画家」といわれた節子さんの絵を見ながら、色について学芸員が解説しました。「節子さんは、絵の中でとなり同士の色がきれいに見えるように、実際の物とは違う色を使うこともあった。」「透明のガラスの置物を描くときでも、土のような茶色で表現している作品もある。」など、節子さんの色に対する自由な姿勢を感じてもらうようにしました。





実習展示室に戻ったら、いよいよ最後の工程、粘土での塑造に取りかかります。最

初に、柔らかく溶いた紙粘土に絵の具を入れて、指で混ぜます。これでオリジナルの「色粘土」ができました。色粘土を指に取ったら、段ボールの土台に塗りつけていきます。頬が塗れたら、目、ロ…、色を変えながら自分の指で大胆に色粘土を乗せていきます。頬と鼻の色を変える子もいました。粘土と絵の具をぐちゃぐちゃと混ぜながら「気持ちいい!」という子、「おいしそうな色だね」「次は赤ください!」と次々と色粘土を作ってカラフルに仕上げる子など、粘土の感触と配色の妙を存分に楽しむ姿が見られました。





最後は、皆で世界にひとつだけの「パパのかおレリーフ」を持って、集合写真。本 当にいろいろな「パパのかお」ができあがりました。

アンケートからは、造形が楽しかったという声のほか、「節子さんの絵を見られて よかった」という意見も目立ちました。今後も、造形と鑑賞をリンクさせた、美術館 ならではのワークショップを企画していきたいと思います。(学芸員 野田)

